

エコタウンでバイオガス安定生産

富山グリーンフードリサイクル

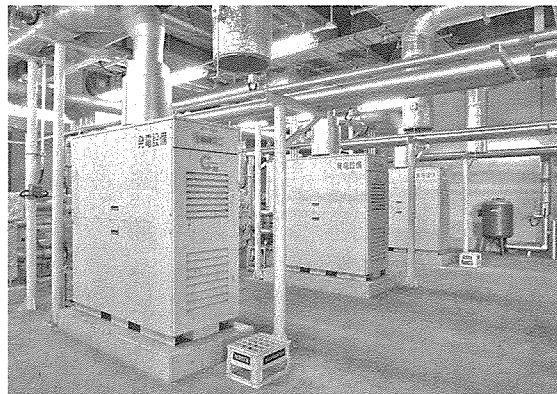
日量計4000m³、焼却減量



現在のメタン発酵槽2基

故障や受入量の増加にも対応していく考えだ。

富山グリーンフードリサイクル(富山市、四津佳伸社長、☎076・426・0788)は、富山市エコタウン内のバイオガス化施設で、18年にわたり安定操業を続け、焼却ごみ減量につなげている。現在、生ごみ・食品系廃棄物を原料に日量計4000立方メートルのバイオガスを生産し、同エコタウン内の企業や発電所へ供給。今後、



バイオガスを燃料供給用の発電機として

同社は2002年、ゼロエミッション構想を基軸に環境と調和したまちづくりを推進する市のエコタウンプラザ承認を受けて、第一期事業者として操業を開始した。北陸エリアで唯一、メタン発酵処理を手掛ける企業として、登録再生利用事業者認定を受けている。主な設備は、受入ホップ2ライン、破砕分選機(48ト/日)、スラリタンク、800立方メートルの固定床式高温メタン発酵槽2基、330立方メートルのガスホルダなど。設計・施工は鹿島建設が担当した。原料は、富山県内や近郊都市の工場や飲料

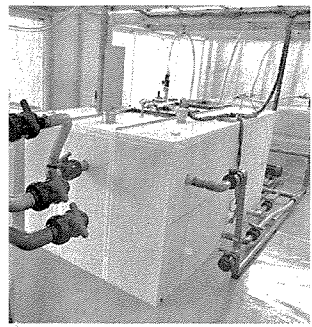
リタンク、800立方メートルの固定床式高温メタン発酵槽2基、330立方メートルのガスホルダなど。設計・施工は鹿島建設が担当した。原料は、富山県内や近郊都市の工場や飲料

石川県立大学

雑草からメタンガス「実用化へ」

災害時電源として活用目指す

石川県立大学の環境生物工学研究室は、雑草からメタンガスを生



大学内に設置した実証プラント

生かし続ける研究にも成功し、3月には大学実験から、どこにでも生かせる雑草を原料を確保できなかった。雑草から、どこにでも生かせる雑草を原料を確保できなかった。雑草から、どこにでも生かせる雑草を原料を確保できなかった。

木材情報

熱利用の現況

熱供給にはいくつかのタイプがある。よく知られているのが地域熱供給で、これはある区画の熱導管を通し、配熱を行うボイラーから各戸へ熱を供給する。これにより利用者は各戸でボイラーを利用するよりは熱利用の代金が安価になる。欧州などでは盛んに行われており、バイオマスが燃料として積極的に使用されている。国内でも北海道や東北などで行われている他、バイオマス燃料使用先として徐々に取り組む事業者が増えている。

を大括り化(または予定)している製造業者は156事業者となっており、いずれも前年度から拡大した。募集したのは、推奨3品目(飲料、賞味期間1年以上)の事業者